

令和 4 年度

事業所名 : グループホームなの花 南棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100394		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームなの花 南棟		
所在地	〒020-0861 盛岡市仙北二丁目4-2		
自己評価作成日	令和4年8月12日	評価結果市町村受理日	令和4年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

美味しい食事と健康な身体、楽しみのある生活は職員全員のモットーであり栄養バランスよく野菜と魚をふんだんに使った料理は利用者様方にも評判がよく食事を楽しみにされている。仙北公園は毎日の散歩コースとなり整備された花壇や樹木から季節の変化を感じ散歩は楽しみの一つになっている。筋力低下予防の音楽体操は日課となり成果を感じられる。JR仙北町駅前に位置し交通が便利である。仙北活動センター、産直、商店街など昔ながらの人情が感じられ地域のお祭り見学や資源回収の協力など顔が見える交流をしながら地域に支えられ求められるグループホームをめざしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来6年を経過する2ユニットのグループホームである。JRの駅に隣接し、近くに産直や花壇等が整備された公園があり、住環境に恵まれている。玄関をはさんで両ユニットのホールが繋がり、自由に往来でき、開放感がある。ここ1年で、両ユニットとも半数の利用者が入れ替わったが、職員が新たな関係づくりに努め、利用者同士の関わり合いは円滑である。平均介護度は2.2で、意思表示がしっかりし、トイレや入浴も自立している利用者が多い。カラオケが用意され、歌を楽しんだり、音楽体操に興じたり、また趣味のパッチワークに取り組んでいる人もいる。全員参加のおやつづくりは月1度のお楽しみになっている。コロナ禍で制限のある中、職員全員で利用者が日々自由に明るく穏やかな日々を送れるよう支援に努めている。コロナ収束後の地域との繋がりの回復が待たれる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で理念について話し合い管理者・職員間で共有し、理念は職員がいつでも見れる場所に掲示し、実践につなげている。	運営法人が2004年に最初に開設したグループホームの理念を継承しており、ケアサービスを提供するに当たってのホーム及び職員の姿勢を表現したものになっている。理念を具体的に実践するため、一人一人のケアプランに日々の暮らし方の目標を設定し、支援するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仙北2丁目の町内会に加入し、自治会長、町内会連合会会長、民生委員にも運営推進会議委員になって頂き、地域の情報を得て廃品回収など町内会の行事に参加している。また運営推進会議では避難訓練に参加して頂き、利用者様の状況を理解して頂いている。	コロナ禍で、町内会活動や地域行事も中止が続いており、ここ2年間地域との交流は途絶している。コロナ収束後に向け、運営推進会議の助言も得ながら、地域との繋がりを拡げるための取り組みの工夫や準備を進めることとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナの影響で中止しているが、地域の方々の趣味の発表の場を提供し認知症の理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回会議を設け、園の取り組みや現状を報告している。現在はスローショッピングの参加の検討している。	委員は町内会連合会、自治会の代表、民生委員、家族で構成され、本年度3回の開催はいずれも書面による会議となっており、その都度、運営状況の報告に対する所見をいただいている。委員の提案でスーパーマーケット等が実施する「スローショッピング」(認知症の方々がボランティアの応援を得ながらゆっくり買い物を楽しむ企画)への利用者の参加を検討している。	運営状況の報告に加え、ホームの取り組み課題等をテーマに意見交換を行うことで、会議が活性化することが期待されます。また、テーマによってはゲストを招いてお話を聴くことも一案と考えられます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度について不明な点は市役所高齢者福祉課、生活福祉第一・二課へ電話で相談指導を受けている。	主として計画作成担当者が担当課や地域包括支援センターと連絡、連携を取っている。単身の生保受給者もあり、行政と連携しながら支援している。制度の改正等について、担当課から確認し、的確な指導を得ており、円滑な関係を築いている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなの花 南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を安全に守るため身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止マニュアルを作成。廃止に関する研修を全職員が受講し運営推進会議でも報告している。現在拘束が必要な利用者様はいない。	「身体拘束廃止委員会」は両ユニットの管理者、職員各1名、計画作成担当で構成し、3か月毎にテーマを決めて話し合いを行っている。研修会では、指針の確認を始め、スピーチロックや行動抑制の防止について学習している。現在、拘束を要する利用者はいないが、外に出ようとする人もおり、玄関にセンサーを設置するとともに24時間施錠を基本としている。	玄関の24時間施錠は身体拘束に当たると踏まえたうえで、利用者の安全を確保しながら理念にもある「自由で喜びのあるホーム」の暮らしを支援するための工夫や方策を委員会で話し合うことが強く望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待ポスターを掲示し入浴時の身体観察・言動も含め虐待が見過ごされないよう些細な変化も見逃さないよう職員相互の連携を取り注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時は市役所介護高齢福祉課へ相談、指導を頂いている。特に生活保護の方については生活福祉第一・二課へ相談・報告し連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は入居前に重要事項説明により丁寧に説明し、疑問不安などを解消していただいたうえで契約を行っている。改定時は書面で定時、問い合わせに関しては随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でご家族の声を聞く機会が少なくなっているが、3か月に1回のケアプランの評価・更新の際に利用者の状況と一緒に写真や運営推進会議議事録を郵送し、ご家族様よりお手紙で要望を頂いている。 また玄関にご意見箱を設置している。	3か月に一度のケアプランの評価結果を家族に送付しているが、その際、スナップ写真や運営推進会議議事録も添えている。返事をくれる家族もあるが、お礼が主で、運営に関する意見等はない。コロナ禍で利用者と家族の面会は玄関先で短時間をお願いしており、ゆっくり面談したいとの要望が多く、状況を見ながら対応したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な疑問や意見は管理者が受けている。管理者は本社に報告相談したり、管理者会議で話し合っている。結果は申し送りや書面にして提示し職員全体で共有している。	管理者は毎月のユニット会議で職員の意見や要望を聴取している。勤務割の変更希望や環境整備への提案(玄関にカーテン等)が多い。自己評価を実施し、管理者の評価を本部に報告している。法人全体で契約社員が多く、毎年度3月に本部担当部次長が契約更新に向け、一人一人と面談し、勤務状況、待遇、希望等を確認している。行事、環境美化保全、防災、地域運営等の委員会を設け、全職員が複数の委員会を担当し、効果的な運営と職員の質向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員はそれぞれに得意分野を活かし、やりがいや評価を得られる環境を作っている。資格へのバックアップは積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格修得研修はシフトを調整するなど参加しやすい環境を整えている。必要な資格は職員の能力を把握し個々に声かけをしている。一般の研修会の情報は回覧で提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会や盛岡市保健福祉部介護保険課、地域包括支援センター主催の勉強会に可能であれば参加し、勉強・交流を図りサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で取り巻く環境や心の状態をお聞きし事前に見学をしていただき不安・疑問の解消に努めている。入居後は言動・行動・思いなどを職員間で共有しご家族と連携を取り安心して頂けるよう統一したケアを提供している。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点でご家族の不安・疑問・要望をお聞きし利用者の支援が円滑にいくよう配慮している。個別援助計画・広報などで利用者の状況を報告し信頼関係がもてるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスは他職種とも連携を取り、利用者の状況とサービス内容(フットケア、訪問美容等)をご家族様へ説明し情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と食器拭き・調理の手伝いや歌をうたったりゲームを楽しんだり、互いが共に生活する意識を大切にしている。また相性のよい利用者同士、棟を問わず居室を行き来し円滑な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族との外出で心が安定する様子をお伝えし家族との絆を大切にしている。ケアプラン・モニタリング・広報で園での生活を紹介し共に情報共有をしている。些細なことでも情報交換をし共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室の利用や墓参りなど、家族の協力を得ながらこれまでの生活の中で行われてきたことが継続できるよう支援している。	携帯電話で友人と話す利用者もいるが、知人、友人等と交流している人は殆どいない。例年2人程度の墓参り帰宅者がいたが、今年はいない。訪問美容師が馴染みになっており、来訪を楽しみにしている人が多い。玄関を挟んで両ユニットのホールがオープンで繋がり、利用者は自由に行き来でき、個人的に親しい関係が生まれ、お互いの居室を訪問し合う人もいる。昨年は敬老会等の行事を合同で開催したが、今年はユニット毎に行った。通院の帰途、自宅周辺を回り、安心して帰ってくる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を考慮し関係がうまく作れるように声掛けしたり、同様の趣向を見て一緒に過ごす時間を意識的に作って支援している。価値観や考え方の違う一人の人であることを忘れず、一人の時間も大事にしつつ、共同生活の良さも感じて頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的に連絡を取ることはないが、退去後も相談の連絡を頂いたり、お花を届けて下さるご家族様もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに担当スタッフがあり、本人の意向と体調・認知機能の状況をよく理解し具体的な計画に繋げている。職員から見た問題だけでなく、本人にとってどうなのか考える視点を持つよう努めている。	自分の思いや意向をしっかり話す人が多く、15時のお茶の時間には、寄り添いながら拝聴するようにしている。現在、両ユニットとも入居間もない利用者が半数を占め、家族からこれまでの生活歴、趣味、大切にしてきたことなどの情報を得ながら、本人が安心して落ち着いた生活ができるよう、また、他の利用者とのコミュニケーションが取れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の基礎情報を大切にしている。日常の会話からも生活歴を汲み取りご家族からの情報も職員間で共有・周知し統一した支援を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切にしている。不安になる要因や時間帯を職員間で共有しつつ穏やかな生活が保てるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月毎や特変があった場合はその都度ケース会議やユニット会議を行い、ケアプラン・モニタリングを郵送している。家族の面会時にご意見・ご意向を伺いプランに反映できるよう努力している。プランはご家族の了承を得て実行している。	2ユニット利用者全員のケアプラン作成からモニタリング、評価まで計画作成担当者一人で行い、ユニット会議でのカンファレンスで職員の意見を確認しながらプランの作成や見直しを行っている。3か月毎のプランの評価結果を家族に送付し、意見、希望等を確認し、プランに反映している。	令和3年度から計画作成担当者は、ユニット毎に1人から事業所に1人以上と配置基準が緩和されましたが、2ユニットを全て1人で担当するのは負担が大きいのではないでしょうか。介護支援専門員の資格者は事業所全体で1人いればいいので、サブの計画作成担当者(認知症実践者研修の修了者)を一方のユニットに配置することを検討されては如何でしょうか。また、個々の利用者を担当する職員のモニタリングをもとに、全員参加でケアプランの評価、見直しの話し合いを行うことが望まれます。

事業所名 : グループホームなの花 南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別生活日誌で日々の生活の様子を記録し情報を共有、ケース会議で検討しプランの見直しをしている。日常的に申し送りノートを活用。朝の申し送りで伝達し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況も視野に置き、現状を把握し事業所が出来ることを柔軟に対応している。必要があれば市役所、地域包括支援センター、協力医にも相談し必要な情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出がままならない状態の中、近所の公園への散歩や産直への買い物は状況を見ながら継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される場合は協力医に訪問診療を依頼している。ご家族が遠方で、主治医継続する場合は施設職員が通院対応している。 歯科は歯科協力医による訪問診療を受けている。	家族と相談のうえ、かかりつけ医をホームの協力医に変更している利用者が多い。協力医は月1回訪問診療を行ってくれる。以前からのかかりつけ医や眼科、皮膚科等の特定外来には家族が同伴することを基本にしているが、職員が同行することも少なくない。利用者の健康管理については、系列グループホームの看護師や協力医院の看護師に相談し、指導、助言を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医受診している利用者の症状の変化などは、協力医の看護職に報告・相談している。またインスリン注射がある利用者は系列施設の看護職員が対応、その際他利用者の相談や状況確認し受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院担当者やご家族と連携を取り必要な物を届けたり、必要であれば訪問し本人の状態確認をするなど協力体制を取り早期退院に向け支援している。 退院後は協力医・主治医に報告をし症状の変化に注意している。またサマリーを活用し疑問・不安などは病院へ相談し指導を受けるなど連携を取っている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に指針が記載されており説明している。医師が終末期と判断されたとき本人の意思を最大限に尊重し、対応可能な範囲を含め担当者会議を行い本人に一番良い方向を検討していく。また終末期における対応について早い段階で家族の意向を把握し方向性を定め連携を取りながら支援している。	利用開始時に指針をもとに、重度化は、食事が摂れなくなったり、ホームの設備で対応が困難になった時点で他施設等への転移を検討し、また看取りについては、医療連携の体制が十分でないことから、可能な限りの支援を行うが、早い時期から話し合いの機会を持ち、次の段階に向けた準備を行うことを利用者、家族に説明し、同意を得ている。現在、重度化、看取りともに対象となる利用者はいないが、医療連携体制の確立が喫緊の課題となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設のマニュアルを作成、見えるところに掲示し職員間で共有している。事故発生時の初期連絡手順を周知し早期対応できるように努めている。またAED講習や心肺蘇生法などの講習を行い危機管理意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	盛岡南消防署仙北出張所に報告し年2回の避難訓練を行っている。自然災害時における本社からの応援部隊、避難場所、避難経路などマニュアルを作成し訓練を行っている。防災備品を備え自家発電を設置している。	緊急時や災害時の防災マニュアルに基づいて、春は火災、秋は水害の避難訓練を実施している。春の訓練は夜間を想定して実施した。10月には水害発生を想定し、職員の車を借り上げ、二次避難場所の系列デイサービスまでマニュアルに定めるルートを通して避難する訓練を行う予定にしている。非常用食品や飲料水、備品も準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や考え方、価値観、行動のスタイルは一人ひとり違う事を理解したうえで接しており、職員が利用者の個性を共有してケアできるよう情報共有に努めている。	職員一人一人が利用者の尊厳を傷つけないようケアに努めており、利用者の話は肯定感を持って受容し、誇りやプライドを損ねることのないよう心がけている。また、トイレのドアを開けたままで介助しないこと、他者に聞こえるような声で尿や便の話をしていないことなど、トイレでの見守り対応に特に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から気軽に会話できる雰囲気作りに気を配っている。利用者との会話の中から希望(買い物、家に行きたい)は職員同士で情報共有し買い物やドライブなどの行事に繋げたり、ご家族と連携をとり対応している。 自己表現が難しい利用者には言動から意思を汲み取り、自己決定できるように働きかけている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなの花 南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間など、ある程度の目安となる時間は決めている。一人ひとりの希望やペースに合わせた対応が出来るよう、業務優先にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容を利用し、散髪や毛染めをしている。洋服は季節に合った洋服を選んでいただけよう声掛けしている。爪切り・耳掃除は定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みに合わせ、味付けや盛り付けを工夫している。ゴマすりや団子作りなど一緒に準備をしたり、テーブル拭きや食器の片付けも共にやっている。	本社から栄養管理ソフトによる1年間分の献立表が示され、食材は外注業者から3日分を配達してもらう。調理は専門の調理員が昼・夜分を担当している。適宜一品足したり、畑で育てた野菜を加えたりしている。月1回のおやつ作りは皆で協力しながら楽しんでおり、ピザトーストが好評である。コロナ等の感染症防止のため、利用者にはテーブル拭きのみ手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後記録している。 旬の食材で栄養バランスのとれたメニューを提供している。また主治医・協力医による血液検査から栄養状態・脱水のリスクを把握し食事に関するアドバイスを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けや仕上げ磨きを行ったり、施設提供のうがい液を使用しうがいしている。 義歯は夜間、義歯洗浄液につけ清潔保持に努め、義歯洗浄カップと歯磨きコップは毎日洗浄・消毒している。歯科協力医による定期的な歯科検診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ排泄パターンを把握している。 定時のトイレの声掛けや誘導を行ったり、羞恥心に配慮した排便確認を行っている。 ホットタオルや陰部洗浄を行い清潔保持・感染症防止に努めている。	布パンで自立している利用者が過半数で、日中は排泄チェック表で声がけや誘導を行い、全員がトイレで排泄している。夜間は、常時おむつ使用の1名の他、睡眠優先の2名がおむつを使用しているが、大多数の人は自分でトイレに立っている。歩行が不安定なため、一部介助を必要とする人もいるが、自立者が多い現状を維持できるよう支援に努めている。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では繊維質の物を多く提供している。毎日のカフェオレや水分補給、ヤーコン茶を提供している。 排便チェック表をつけており、便秘症の方は医師の処方により整腸剤や下剤を服用し排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日は決めずに行っており、入浴チェック表の順番で声を掛けている。声をかけて気分ではない時は別の日にしたり、希望される方は入浴できるように調整し対応している。また一番風呂が好きな方は最初に、ぬるめが好きな方は後の方など配慮をしている。	日曜日以外は毎日沸かしており、本人の希望に沿ってユニット毎に入浴チェック表を作成、順番に1日3、4人ずつ入浴している。介助を必要とする人は少なく、見守り中心の支援になっている。自分のペースでリラックス出来るひと時になっており、普段は口数の少ない人が、職員相手に愚痴や悩みを話してくれることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調・希望に合わせて、起床・就寝・休息ができるように支援している。寝具の好みなどもなるべく希望に沿うようにし、日中の活動も取り入れながら夜はよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病状を把握しお薬説明書は申し送りに提示し全員が把握できるようにしている。処方薬は鍵のついたキャビネットに保管し管理者が配薬、夜勤者と遅番が確認し間違いがないようにしている。服薬介助時は本人に印字を見て頂き、職員が音読して内服確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としての食器拭き・洗濯たたみなどできることをして頂いたり、ゴマすりや野菜の筋取り、団子作りなどそれぞれの得意分野を活かす支援をしている。 カラオケがあり、歌ったり音楽体操をしたり日常で楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の産直やお餅屋さんへの買い物。気候の良い季節は仙北公園への散歩が日課となっている。 職員の果樹園でのりんご狩りは恒例となっており今年も計画している。	ユニット毎も含め全員での外出は自粛しており、希望者は、マンツーマンで近くの公園などに散歩に出かけている。11月には、リンゴ狩りを予定しており、利用者は楽しみにしている。出来るだけ外の空気を吸う機会をつくりたいとしている。	

事業所名 : グループホームなの花 南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によってはご家族と金銭管理について相談し、決まった金額を所持・管理している。使用する際は職員が見守り・声掛けしながらご自身で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の携帯電話をもっている利用者には電池が切れないよう充電したり、使い方を説明している。手紙が届いた時は職員が内容の説明をしたり、電話をつないで対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く天窓から太陽が射しこみ白い壁が一層広い空間を生み出している。数か所に飾られた岩手山のパネルは広大な自然を感じさせている。 全館パネルヒーターを設置し廊下とホールに設置したエアコンで冬は暖かく、夏は涼しく温度調整をしている。また、季節に応じた装飾をすることで季節感を感じられるようにしている。	吹き抜けの天井、南側に天窓が設置され、平屋の2ユニットのホールがオープンに繋がっており、明るく広い共用空間である。運営母体の法人は環境衛生管理事業も展開しており、施設の管理が行き届き、清潔な住環境になっている。壁のクロスがクリーム色、床はシックな茶系で、落ち付いた雰囲気がある。利用者は、大きなテーブルを囲んで和やかに談笑している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットを自由に行き来し居室訪問を楽しんでいる。 気の合う利用者同士で談笑したり、手作業を楽しんでいる。居室ではパッチワークをしたり、新聞や本を読んだり自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットとチェスト、電動ベッドを備え付けている。本人・ご家族の希望で使い慣れた家具や椅子、テレビなどを設置している方もいる。壁に家族との写真や本人の塗り絵、クラフトを飾り満足して頂いている。ご家族からのカードやプレゼント、お花など飾り自宅と同じように過ごして頂けるよう工夫している。	各居室のドアには名前や顔写真、クラフト品等が飾られ、各居室の目印になっている。電動ベッド、クローゼット、チェストが備え付けられ、椅子や家具を持ち込んでいる人もいる。家族と話し合いながら、家族写真、塗り絵等の作品、クラフト製品等を飾り、自分好みで寛ぎやすい部屋づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは絵や見やすい貼り紙で表示をしている。洗面所はドアがなくセンサーで電気がつくため分かりやすく、個人の洗面台は名前を明記している。 居室ドアには本人と家族の写真やクラフトを張ることで目印になるようにしており、不安なく過ごせるよう工夫している。		